

深草中学校ブロックの小中一貫教育

小中一貫教育構想図

子どもの実態

- ・児童・生徒，一人一人は優しさがあり，何事にも意欲がある。
- ・行事に全力で取り組める。
- ・人との関わり方・コミュニケーションの方法に課題のある子がいる。
- ・学校では学習に取り組めているが，家庭での学習に課題のある子が多い。

稲荷小学校 学校教育目標

『いきいき なかよく
りそうに向かって 考動する子』

いきいき（いきいき主体的に学習できる子）

なかよく（友だちと仲良く，命ときまりを守りきる子）

りそうに向かって（目標に向かって，心や体を鍛える子）

いなり（学校・地域を愛する子）

考動する子（「考えて行動する」子）

深草小学校 学校教育目標

『夢を持ち 自信を持って
前へ進む子の育成』
～自ら学び，心と行動を高める子～

学び

- ・自分の課題を見つけられる子
- ・すすんで本を読む子
- ・人から学べる子
- ・家庭で学習する子
- ・失敗から反省し，工夫できる子

心

- ・自己を大切にする子
- ・善悪の判断ができる子
- ・自然や物を大切にする子
- ・気を配り，思いやる子
- ・違いを尊重する子

行動

- ・すすんで挨拶する子
- ・生活習慣をきちんとする子
- ・最後までやりきる子
- ・すすんで責任を持ち子
- ・すすんで運動する子

深草中学校 学校教育目標

志を立て，その実現のために努力する人間の育成
「学び甲斐」と「学び心地」を基盤として

イメージメッセージ ～みんなの力で

「一生懸命がかっこいい」学校を～

【3校の教育目標実現をめざす方向にある めざす子ども像】

- (1) 正しいことに自信を持ち，自分に厳しく，人に優しく，人権意識を常に働かせることができる生徒
- (2) 正確な発信・受信による意思疎通ができ，いろんな視点からの他者の意見を採り入れて自分を変容させることができる生徒
- (3) 情報を分析・解釈してまとめ，確かで豊かな知識を獲得できる生徒
- (4) 初めてのこと・未知のことにも思考・対話・協働をもって挑める生徒
- (5) 立てた目標に向かって自分をコントロールしながらねばり強く，見通しをもって計画・実践できる生徒
- (6) 心身の成長の基盤である睡眠・運動・栄養を大切に考え，生活の中で実践できる生徒

小中一貫した取組

学びにかかわる取組（学力向上に向けて）

- ・各校が確実に学習指導要領に基づいた授業を行う（ことで，各教科等の指導と評価の一貫性を担保する）。
- ・各教科等の目標の達成や主体的・対話的で深い学びを実現するために，活動を通して資質・能力を育む，言語活動を取り入れた授業を行う。
- ・文字を読み・書きする力や計算する力等，あらゆる学習の基礎となる力を確実に習得させる。
- ・支援の必要な児童生徒への取組の充実とその交流・接続を図る。
- ・小中9年間で育む視点をもって，キャリア教育を充実させる。
- ・小中9年間のつながりを見通し，発達段階に応じたノートづくりや家庭学習の内容・方法を充実させる。

育ちにかかわる取組（生活力向上に向けて）

- ・あいさつを切り口としたより良い人間関係づくりを進める。
- ・相手の話をしっかり聞き取ったり，自分の思いや考えを相手に伝えたりする等，コミュニケーション力を育む。
- ・学級・学習・行事の中での対話や話し合いにより信頼関係を築かせる。
- ・学校段階・発達段階に応じた「学習規律」「頭髮・服装などのきまり」「清掃の方法」に系統性をもたせる（まず各校内で点検）。
- ・生活・補導指導の考え方・方法についての相互理解と改善を図る。
- ・児童会活動・生徒会活動の交流を通しての「なじみ」の形成を図る。
- ・自己を高め社会性を育むために，道德科の授業で，道德的価値について各自が考えられるような問いを重視する。

軸となる取組・活動

義務教育卒業時につけたい力【学力向上の視点で】								
各教科等の学びをとおして社会生活の中で生きて働くものの見方・考え方を身に付け，学ぶことが習慣化し，自ら変容する力								
9年間をとおして付けていく力								
・取り組むべき課題について，計画的に，最後まで粘り強く取り組む。 ・がむしゃらにならず，めあて・目標に照らして自分の学びを修正する。 ・学習集団の中で話し合ったり協力したりすることにより課題を解決する。 ・振り返ったり他者と交流したりして，自分自身を客観視し，自分の特長や課題を見出す。								
小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）	小4（4年）	小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）
・「学びのルール」を理解して，毎日の学習課題に着実に取り組む。 ・明瞭に音読することや漢字を使うこと，正確に計算できること等，学びの基礎となる力を身に付けられるように家庭学習を行っている。		・今後の学習の鍵となる各教科で付けなければならない力を身に付けている。 ・毎日の学習課題に着実に取り組むとともに，自分で課題を見つけることができる。 ・1，2年生で行ってきた家庭学習を続けるとともに，宿題以外の学習も，自分で課題を見つけて取り組むことができる。 ・場に応じた声の大きさと話すことができる。		・自分で立てた計画にしたがって，家庭学習を着実に行うことができる。 ・設定された課題や自分で見つけた課題の解決に向けて，皆で協力してひとつの課題に取り組む，その活動を通して仲間と一緒に学ぶの良さを感じることができる。 ・聞き手が求めていることを話したり，自分の考えや思いを伝えたりすることができる。		・与えられた課題や自分で見つけた課題を，計画を立てて解決に向けての見通しをもって取り組める。 ・一人一人がじっくりと黙々と取り組む時間を大切に授業設計を行う。 ・授業評価が，発表やグループ学習の活発さに目を奪われず，一人一人に付けたい資質・能力が付いているかを記述から見取することを怠らない。 ・これらと併せて，課題解決のために協働して取り組むことの意義や大切さを知る。具体的には，日頃の教科学習の中での形態やポスターセッションに取り組む等，皆で取り組んで仕上げることによる成就感を感じ，その基となる個人で一生懸命課題解決に取り組む姿勢を維持続ける。		
＜中学校ブロックとしての取組＞ ・3校で設定した共通の「学びのルール」を理解し，日々の学習習慣が根付くようにする。		・自ら学習を進めるための基盤となる調べ学習の方法を身に付けさせる。		・協働的な学びの意義や大切さを知れせるための課題を設定し，最後まで取り組ませるようにする。		・小学校での学習を基礎に，自ら設定した課題の解決のため考えられるような場面をつくり，課題解決能力を育てる。		

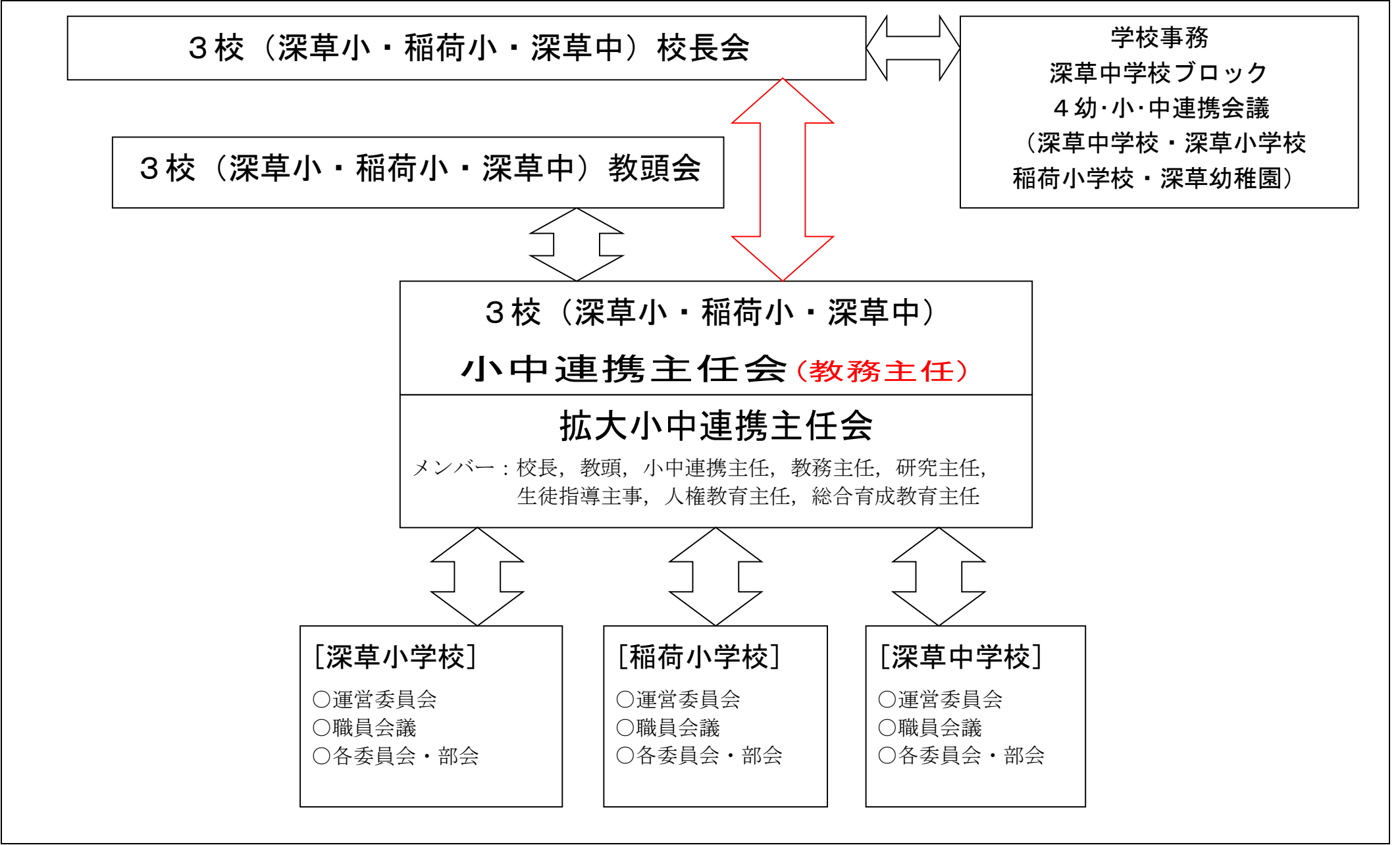
義務教育卒業時につけたい力【キャリア教育の視点で】								
自分の夢や理想の姿を抱き，その実現を目指して努力し続ける力								
9年間をとおして付けていく力								
・自分の生活圏（学校や町内），校区や伏見区等，地域に目を向け日々の暮らしを知り，多くの大人との関わりの中でくらしていることを知る。 ・高齢者施設等の福祉施設でのふれあいから自分にできることやみんなに関われることを考える。 ・地域の特色や歴史について調べたことをもとに，自分にできることやみんなに関われることを考える。 ・自分について知ったり課題を見出したりし，興味関心や将来の希望を実際の仕事の内容や社会との関わりからの視点で考える。 ・働くことの意義を考え，様々な職業の社会の中での役割や大切さを知る。 ・自分の願いの実現のためにしなければならないことを見出し，自分の生き方の問題としてとらえることができる。								
小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）	小4（4年）	小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）
＜深草小学校の取組＞ ・学校たんけん ・まちたんけん		・地域探究 深草商店街	・地域探究 地域の伝統文化	・地域探究 地域環境 ・スチューデントシティ	・地域探究 SDG s 町づくり	＜深草中学校の取組＞ ・自分自身の力や希望を知る等，自己理解とその共有を図る学習		・SDG’sの学習を通じた，社会観と，自分の将来とを結び付けた，中学卒業後の進路を考える学習
＜稲荷小学校の取組＞ ・学校たんけん ・まちたんけん		・地域探究	・地域探究 安全	・地域探究 伝統文化	・地域探究 これからの町づくり			
＜中学校ブロックとしての取組＞ ・学校や身近な地域を知ることを通して，社会の中で暮らすことを感じ，学ぶ意欲につなげる。		・より広く地域のことを知ったり，福祉交流を行ったりすることで，社会の中で果たす役割について考える機会とする。		・福祉交流やスチューデントシティでの学習を通じて，働くことの意義を考える。		・小学校での学習を基礎に，総合的な学習の時間や学級指導を中心とした学びにより，自らのキャリア形成を行い，中学校卒業後の自分の生き方について考える。		

学びの約束・ルール

項 目	小1（1年）	小2（2年）	小3（3年）	小4（4年）	小5（5年）	小6（6年）	中1（7年）	中2（8年）	中3（9年）
あいさつができる	・朝のあいさつが大きな声でできる。 ・帰りのあいさつが大きな声でできる。 ・授業の始まり・終わりにあいさつできる。				・あいさつや返事が，その場にあわせてできる。 ・相手のことを思いやってあいさつできる。		・その場の状況に応じた言葉づかいや態度であいさつできる。		
相手の話をきく	・話をする人の方を向いて聞く。 ・うなずく等の話し手が話しやすい雰囲気をつくりながら聞く。				・話をする人の方を向いて聞く。 ・うなずく等の話し手が話しやすい雰囲気をつくったり，自分の考えと比べたりしながら聞く。 ・必要に応じてメモを取る等，きちんと聞き取りをすることができる。		・正しい姿勢で相手に正対し，メモを取りながら聞き取れる。 ・自分の考えと比べたり，修正したり，あるいは，相手の考えを正しく捉えるために質問したりできる。		

自分の思いを伝える	<ul style="list-style-type: none">・姿勢や口形，声の大きさや速さなどに注意して，はっきりした発音で話す。・話す事柄を順序だて，丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話す。	<ul style="list-style-type: none">・相手を見たり，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意したりして話す。・相手や目的に応じて，理由や事例などを挙げながら筋道立てて，丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉づかいで話す。	<ul style="list-style-type: none">・相手に正対し，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話す。・相手や目的に応じて，理由や事例などを挙げながら筋道立てて，丁寧な言葉を用いるなど，目的や意図に応じて，事柄が明確に伝わるように，話の構成を工夫しながら，適切な言葉づかいで話す。	<ul style="list-style-type: none">・相手の反応を確かめながら，抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話す。・自分の考えや思いが相手にきちんと伝わるように話の構成を工夫し，丁寧語，尊敬語，謙譲語等で適切に使って話すことができる。	
家庭学習をすることができる	<ul style="list-style-type: none">・15～30分は机に向かう。・その日の授業を振り返る。（教科書を読む・ノートを見直す）・出された宿題をする。	<ul style="list-style-type: none">・45～60分は机に向かう。・その日の授業を振り返る。（教科書を読む・ノートを見直す・大切なところに線を引く・まとめ直す）・出された宿題をする。	<ul style="list-style-type: none">・75～90分は机に向かう。・その日の授業を振り返る。（教科書を読む・ノートを見直す・大切なところに線を引く・まとめ直す・関連するところを進んで調べる）・出された宿題をする。	<ul style="list-style-type: none">・2時間は学習する。・その日の学習内容を復習する。（教科書を読む・ノートを見直す・大切なところに線を引く・まとめ直す・関連するところを進んで調べる）・出された宿題をする。	<ul style="list-style-type: none">・3～4時間は学習する。・中2までの内容・方法に加え，中学で学習した内容を計画的に復習する。
ノートづくり	<ul style="list-style-type: none">・マス目を意識して一字一字・一行一行ていねいに書くことを意識させる。・後から見てもわかりやすく書くことを意識させる。	<ul style="list-style-type: none">・わかりやすくはっきりした字で書くとともに，大切なところを強調したり，表や図，グラフも使ってわかりやすく表したりするように書く。	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えや友達の意見を書き，学んだ過程がわかるようなノートづくりをする。・自主的に調べたことを書き込めるスペースをつくる。	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えを書き，級友の発言をメモして学んだ過程がわかるようにする。・自主的に調べたことを書き込むなど，学びを広げることができる。・学習した内容を，後から見直した時にわかりやすいよう整理する。・学習した過程を振り返り，学んだことが自覚できるように工夫する。	

小中一貫教育推進体制



家庭・地域との連携・協力に向けた取組

- ・各校の「学校だより」や「学校ホームページ」において，各学校の取組や小中の教育のつながりに関わる記事を掲載する。
- ・「学校評価」のアンケートが形骸化しないよう，**問いを**，保護者の感じていることを大切にした内容や，学校として気になること・是非尋ねたい内容に改め，数値の比較のみに偏らず，保護者が学校に対して感じていることを伝えるツールの一つとなるようにする。（これまでの実施方法が教職員にとって刺激となくなってきた。また，質問項目について，学校運営協議会の意見も**一部採り入れている。**）
- ・PTA本部同士の交流，学校運営協議会の理事同士の交流及び取組の紹介，また，3小中学校で共同して実施できる行事がつかれないかを検討する等の機会を設け，PTAや運営協議会レベルでのつながりをつくっていけないか模索する。